



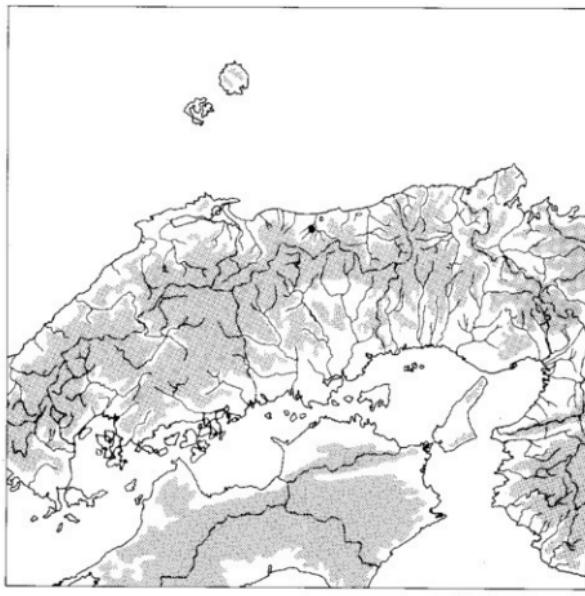
# 下西野遺跡発掘調査報告書

平成8年度

倉吉市教育委員会

しもにしの

# 下西野遺跡発掘調査報告書



平成8年度

倉吉市教育委員会

<10>0100572619

## 序



この報告書は、鳥取県倉吉土木事務所が実施する一般県道倉吉環状線緊急地方道路整備工事に伴う事前調査として、平成8年度に、倉吉市富海字下西野において実施した埋蔵文化財の発掘調査の記録です。

下西野遺跡は、倉吉市街地南側の小鶴地区に所在する丘陵上に位置する遺跡です。調査の結果、遺構の密度は薄いながらも縄文時代と推定される落し穴、中世の土塁基、溝、柵列などを確認し、郷土の歴史の一端を示す貴重な資料を得ることができました。

この報告書が、多くの方々に活用されて郷土の歴史解明の一助となれば幸いに思います。

最後に、今回の調査にあたりご協力いただきました鳥取県倉吉土木事務所、地元富海の関係者の方々、そして現場作業や内務整理に従事していただいた方々をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表するものです。

平成9年3月

倉吉市教育委員会  
教育長 足 羽 一 昭

## 例　　言

1. 本報告書は平成8年度に倉吉市教育委員会が、鳥取県倉吉土木事務所の委託を受け、一般県道倉吉環状線緊急地方道路整備工事に伴う事前調査として、倉吉市宮海字下西野・下長尾において実施した発掘調査の記録である。

2. 発掘調査団は次のような組織・編成である。

團　　長 足羽 一昭（倉吉市教育委員会教育長）

調査委員名越 勉（倉吉市文化財保護審議会会長）

手嶋 義之（倉吉市文化財保護審議会委員）

調査員根鈴 幸雄（倉吉博物館学芸員）　　眞田 廣幸（文化課課長補佐兼文化財係係長）

森下 哲哉（文化財係主任）　　根鈴智津子（文化財係主事）

加藤 誠司（文化財係主事）　　岡本 智則（文化財係主事）

岡平 拓也（文化財係主事）

調査補助員 山根 雅美

事務局 石田佐喜子（教育次長）　　生田 淳美（文化課課長）

福澤 昌子（文化財係主事）　　山崎慎之介（文化財係主事）

山下 博子（臨時職員）

内務整理 泉 美智子・松田 恵子・世浪由美子・妻藤 君江・松嶋あつ子・青戸 千秋・竹歳 曜子

3. 現場での調査は加藤が担当し、山根が補佐した。遺構の図面整理は加藤が担当した。遺物実測は加藤が担当し、遺物写真は森下・加藤が担当し、松嶋・竹歳が補佐した。浄書は泉・世浪・妻藤・青戸が担当した。

4. 本書の執筆は、加藤が担当した。編集は松田が担当した。

5. 遺構測量のための基準杭設置を鶴技術コンサルタント株式会社に委託した。

6. 第1図（地形図）は、建設省国土地理院発行の1：50,000地形図「倉吉」「大山」の一部を複製・加筆したものである。第2図は、平成元年修正測量の1：2,500国土地理院「倉吉市平面図」を使用した。

7. 掘図中の方位は、特に注記を行わない限り国土座標V座標系の北を示す。

8. 遺物に付した記号・番号は、本文・掘図・図版で統一している。

9. 調査によって得られた資料は、倉吉博物館に保管している。

## 本文目次

I	発掘調査に至る経過	1
II	位置と歴史的環境	1
III	調査の概要	2
IV	まとめ	18
報告書抄録		

## 挿図目次

第1図	倉吉市周辺の地形と遺跡分布図	3	第9図	11号～15号土壙遺構図	12
第2図	下西野遺跡調査区位置図	4	第10図	1号古墓遺構図	12
第3図	下西野遺跡全図	5	第11図	2号古墓・6号溝状遺構遺構図	13
第4図	1号～9号落し穴遺構図	7	第12図	1号段状遺構遺構図	14
第5図	10号～17号落し穴遺構図	8	第13図	1号～5号溝状遺構遺構図	15
第6図	18号～24号落し穴遺構図	9	第14図	1号～4号柵列遺構図	16
第7図	25号～27号落し穴遺構図	10	第15図	下西野遺跡出土遺物図	17
第8図	1号～10号・16号土壙遺構図	11			

## 図版目次

図版1	遺跡 調査区全景 水路より南側全景	
図版2	遺構 1号落し穴 2号落し穴 3号落し穴 4号落し穴 5号落し穴 6号落し穴 7号落し穴 8号落し穴 9号落し穴	
図版3	遺構 10号落し穴 11号落し穴 12号落し穴 13号落し穴 14号落し穴 15号落し穴 16号落し穴 17号落し穴 18号落し穴	
図版4	遺構 19号落し穴 20号落し穴 21号落し穴 22号落し穴 23号落し穴 24号落し穴 25号落し穴 26号落し穴 27号落し穴	
図版5	遺構 1号・16号土壙 2号土壙 3号土壙 4号土壙 5号土壙 6号土壙 7号土壙 8号土壙	
図版6	遺構 9号土壙 10号土壙 11号土壙 12号土壙 13号土壙 14号土壙 15号土壙 1号古墓鉄刀・石出土状況 1号古墓完掘	
図版7	遺構 2号古墓内石出土状況 2号古墓 1号段状遺構 1号溝状遺構 2号溝状遺構 3号溝状遺構 5号溝状遺構	
図版8	遺構 4号溝状遺構、1号・2号柵列 3号・4号柵列	
図版9	遺物 出土遺物	

## I 発掘調査に至る経過

平成7年11月、鳥取県倉吉土木事務所より、一般県道倉吉環状線緊急地方道路整備工事の計画が示され、埋蔵文化財の有無が照会された。開発予定地は周知の遺物散布地で、さらに隣接地は昭和56年度に山際1号墳、昭和58年度に山際2号墳の調査が実施されている。倉吉市教育委員会は、当該地に埋蔵文化財の存在が予想されるため、平成8年4月18日より4月26日まで試掘調査を行った。この結果落し穴、溝が見つかり、遺跡の存在が明らかとなった。倉吉市教育委員会は、鳥取県倉吉土木事務所と協議を行い、開発予定地の内遺跡の存在する3,800m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することになった。調査は倉吉市教育委員会が主体となり、平成8(1996)年6月27日～8月30日まで現地調査を実施した。

## II 位置と歴史的環境

下西野遺跡は、倉吉旧市街地より約2km南西に離れた倉吉市富海字下西野・下長尾に所在する。遺跡は、小鶴川とその支流である富海川に挟まれた南北に延びる標高70～80mの丘陵上に所在する。水田面との比高差は約60mである。調査前の現地は、竹林・荒れ地であった。隣接地の下大江字山際では、昭和56年度に山際1号墳、昭和58年度に山際2号墳の調査が行われ、横穴式石室を主体とする円墳が発掘されている。

下西野遺跡の所在する小鶴地区を含めた倉吉市西郊には、多くの遺跡が所在する。以下、分布図(第1図)範囲内の遺跡を中心に概要を述べる。

旧石器時代の遺構は未だ見つかっていない。中尾遺跡(41)ではナイフ形石器(黒曜石製・安山岩質各1点)、削器(安山岩質1点)、長谷遺跡(81)では、ナイフ形石器(安山岩質1点)が出土している。また、上神51号墳(6)・高鼻2号墳の調査中に細石刃石核が出土している。その他に、横谷遺跡群でナイフ形石器・楔形石器が各1点、藤井地区予備調査でナイフ形石器が1点出土した。このような状況より当地域において、遠からず旧石器時代の遺構が見つかると考えられる。

縄文時代の遺跡は、主なもので20箇所余り市内で現在まで確認されている。取木遺跡(15)では前期の焼石群と竪穴式住居跡と平地式住居跡が各1棟、津田峰遺跡では後期の竪穴式住居跡が1棟確認されている。松ヶ坪遺跡(90)は晩期の配石構造・甕棺墓が出土している。近年の大規模な発掘調査の増加に伴って、落し穴の検出数が増大している。中尾遺跡は縄文時代前期～中期と推定される落し穴を84基、長谷遺跡では、縄文時代後期を中心とする57基の落し穴を確認している。また、横谷遺跡群では47基の落し穴を確認している。その他に、イキス遺跡(14)、立縫遺跡群・大山遺跡・大仙峯遺跡・頭根後谷遺跡などで落し穴が見つかっている。

弥生時代は久米ケ原丘陵を中心として集落跡が存在している。その多くは後期の集落で、古墳時代にも引き続々と営まれる。主なものとして、環濠集落の後中尾遺跡、鳥形スタンプ文の出土した中峯遺跡(26)・夏谷遺跡(83)・西前遺跡(28)・クズマ遺跡(9)・大沢前遺跡・中尾遺跡・遠藤谷峯遺跡(22)・白市遺跡(23)・沢ベリ遺跡(39)などがある。墳墓は、前期の土壙墓群としてイキス遺跡・向山古墳群宮ノ峰支群(72)がある。後期には、阿弥大寺四隅突出型埴丘墓群・大谷後ロ谷埴丘墓群(25)・三度舞埴丘墓(33)などがある。

古墳時代になると、丘陵上に多くの古墳が造られるようになる。古墳時代前期の首長墳は、粘土櫛を主体として鳳鏡の出土した国分寺古墳(42・前方後方墳・全長60m)、竪穴式石室を主体とする宮ノ峰19・21号墳(方墳)、三角縁神獣鏡・琴柱形石製品の出土した上神大将塚古墳(29・円墳・径30m)がある。後期の古墳は、大宮古墳(115)・家ノ後ロ1・2号墳、山際1号墳(113)・向山6号墳(75・前方後円墳・全長40m)などの横穴

式石室を持つ古墳や、沢ベリ遺跡・イザ原古墳群などの群集墳がある。7世紀代の古墳には、切石を使用した横穴式石室を持つ三明寺古墳(80)、福庭古墳(67)や、取木遺跡・一反半田遺跡(16)・両長谷遺跡(20)がある。

奈良時代になると、久米ヶ原丘陵東端部周辺に、伯耆国庁(49)・伯耆国分寺(48)・伯耆国分尼寺(47)、大型掘立柱建物群を確認し、官衙と推定される不入岡遺跡(40)が近接して設けられ、伯耆國の中心地となった。その他寺院として、佐波理匙が出土した大御堂廃寺(89)・石塚廃寺(120)がある。

平安時代以降の遺跡は寺院跡として、四王寺山頂に四王寺跡(17)・大日寺遺跡群・広瀬院寺がある。城跡は、小鶴氏の居城岩倉城跡、守護大名山名氏の居城打吹城跡(107)などがある。集落跡は、山名氏館跡推定地(91・15世紀)、今倉遺跡(55・15~16世紀)が分かっているに過ぎない。墳墓は、不入岡遺跡・打塚遺跡(44)で方形のマウンドを持つもの、宮ノ下遺跡(46)で土塼墓、福本家ノ上古墓で五輪塔の下部埋葬施設を、家ノ後ロ1号古墓で宝篋印塔の下部施設が調査されている。

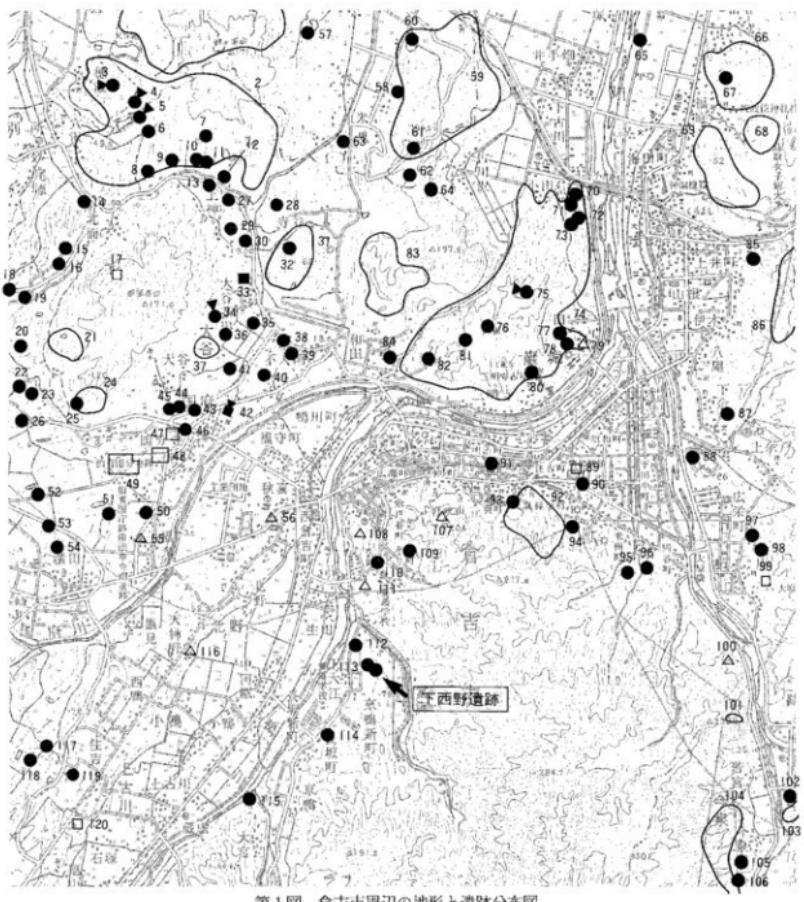
### III 調査の概要

調査は、竹・樹木の伐採後、表土部分を重機によって除去した。表土除去後に人力により検出を行い、遺構の掘り下げを行った。

調査地の基本層序は上層より、Ⅰ黒褐色土（クロボク）、Ⅱ褐色土（ソフトローム土）、Ⅲ黄灰色砂質土（ホーキ火山砂層）である。遺構の検出は、基本的にソフトローム土の面でおこなったが、ソフトローム土の遺存状態の悪い部分は黄灰色砂質土（ホーキ火山砂層）まで掘り下げて検出した。調査は3,800m<sup>2</sup>について行った。遺構の測量は国土地標による4mメッシュを組み、S=1/20で平面図を実測した。調査地の調査後地形測量は平板を使用し、S=1/100、25cm毎の等高線で測量した。

調査の結果、落し穴27基、土壤16基、古墓2基、段状遺構1基、溝状遺構6条、柵列4基を検出した。

1 曲古墳群	16 一反半田遺跡	31 丹波喜山古墳群	46 宮ノ下遺跡	61 米里第1遺跡
2 上神古墳群	17 四王寺跡	32 丹波喜山9号墳	47 伯耆国分尼寺跡	62 米里第2遺跡
3 上神45号墳	18 コザンコウ遺跡	33 三度舞墳丘墓	48 伯耆国分寺跡	63 米里御嶽山出土
4 上神44号墳	19 道祖神峰遺跡	34 大谷大将塚古墳	49 伯耆国庁跡	64 下張坪遺跡
5 上神48号墳	20 両長谷遺跡	35 イザ原古墳群	50 今倉遺跡	65 達田冲遺跡
6 上神51号墳	21 古墳群	36 小林古墳群	51 烏掛遺跡	66 清谷古墳群
7 桜木遺跡	22 道暮谷峯遺跡	37 大谷古墳群	52 福田寺遺跡	67 福庭古墳
8 上神119号墳	23 白市遺跡	38 沢ベリ遺跡（1次）	53 岩屋遺跡	68 大平山古墳群
9 クズマ遺跡	24 古墳群	39 沢ベリ遺跡（2次）	54 矢戸遺跡	69 海田古墳群
10 谷畑遺跡	25 大谷後ロ谷墳丘墓群	40 不入岡遺跡	55 今倉城跡	70 小田鋼錆出土
11 西山遺跡	26 中峯遺跡	41 中尾遺跡	56 北ノ城城跡	71 向山古墳群
12 ドロケ遺跡	27 上持堀山遺跡	42 国分寺古墳	57 烏古墳群	72 向山古墳群宮ノ峰支群
13 東狭間古墳	28 西前遺跡	43 柳塚遺跡	58 船渡遺跡	73 向山古墳群堤谷支群
14 イキス遺跡	29 上神人狩塚古墳	44 打塚遺跡	59 土下古墳群	74 向山古墳群
15 取木遺跡	30 梨葉古墳群	45 古神宮古墓	60 土下129号墳	75 向山6号墳



第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図

(1:50000)

76 三明寺大将塚古墳	85 山根遺跡	94 弥平林1号墳	103 本泉古墳群	112 大畠遺跡
77 上養水道跡	86 古墳群	95 東山田1号墳	104 今泉古墳群	113 山縣古墳群
78 養水古墳群	87 若樹山遺跡	96 僧ヶ平遺跡	105 岸ノ下遺跡	114 東鴨遺跡
79 田内城跡	88 萬小山古墳群	97 下ノ山遺跡	106 中通遺跡	115 大宮古墳
80 三明寺古墳	89 大御堂庵寺	98 桜ヶ谷埴丘墓	107 打吹城跡	116 市場城跡
81 長谷遺跡	90 松ヶ坪遺跡	99 大原廬寺	108 四十二丸城跡	117 後口野1号墳
82 向山1009号墳	91 山名氏前跡推定地	100 円谷城跡	109 高畔古墳群	118 ハツ塚古墳群
83 夏谷遺跡	92 吉墳群	101 若宮古墳群	110 茅才寺1号墳	119 野吉古墳群
84 平ル井遺跡	93 梅田遺跡	102 本泉遺跡	111 赤岩山若跡	120 石塚庵寺



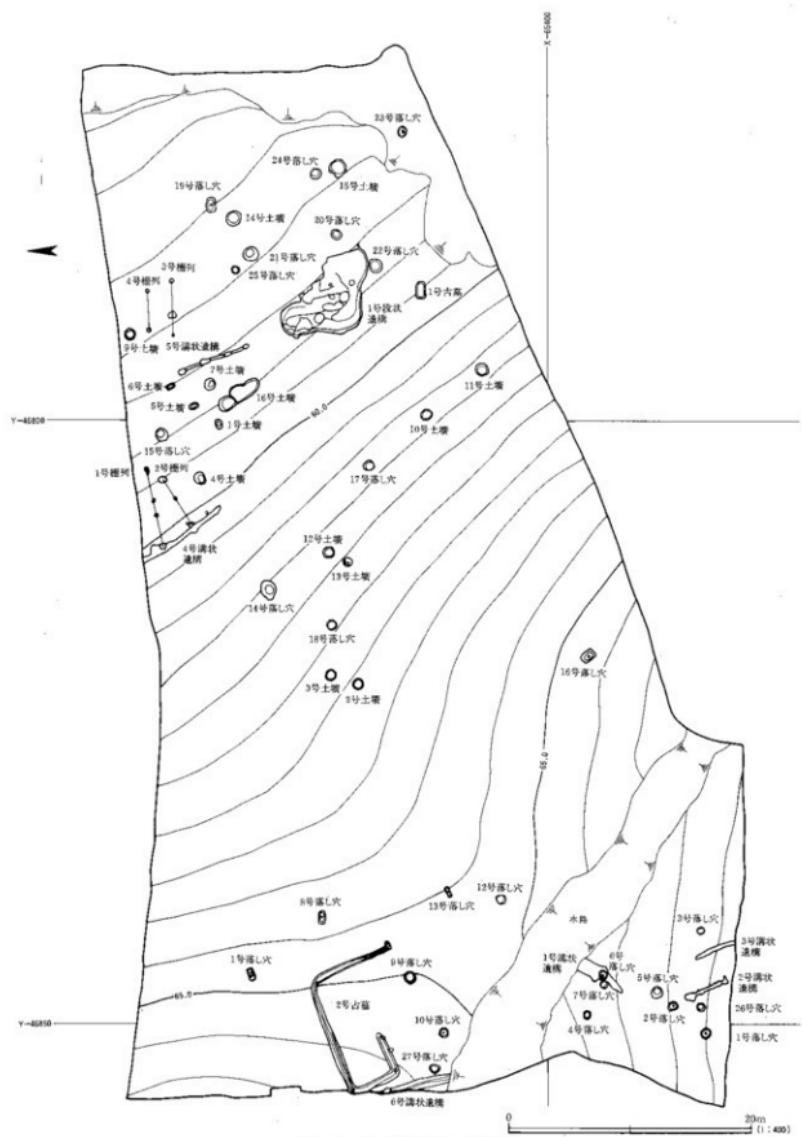
第2図 下西野遺跡調査区位置図

### 落し穴

落し穴は、合計27基確認した。各落し穴の説明は表に一括し、ここでは調査の方法と特徴的な落し穴のみ述べる。表の項目については、基本的に巾尾遺跡を踏襲し、平面形を円形・楕円形・長方形・方形・菱形に、断面形態を垂直型・すぼまり型・フラスコ型・斜め型に分類した。

調査方法は土壌の輪郭を確認したのち、円形の場合は丘陵の斜面に沿って、それ以外は短軸で2分割し、埋土を半分掘り下げる。その後、土層断面の記録を測り、底面まで完掘した。底面に杭穴のある場合は、その土色を確認後、掘り下げる。

**1号落し穴** 調査区南西隅の最高所に所在する。円形プランで杭穴が2段に掘り込まれている。まず杭用の穴を掘り、杭を打ち込んだと見られる。



第3図 下西野遺跡遺構全体図

**6号落し穴** 調査区南西に所在し、1号溝状遺構に切られる。楕円形プランで杭穴より炭化物が出土した。

**11号落し穴** 調査区北西隅に所在する。長方形プランで杭穴を3か所確認した。杭穴の深さは5~15cmといずれも浅い。

**13号落し穴** 調査区西侧に所在する。繭形プランで、規模が0.85×0.31mと今回調査した中で最も小さい。掘り下げ中に炭化物が出土した。

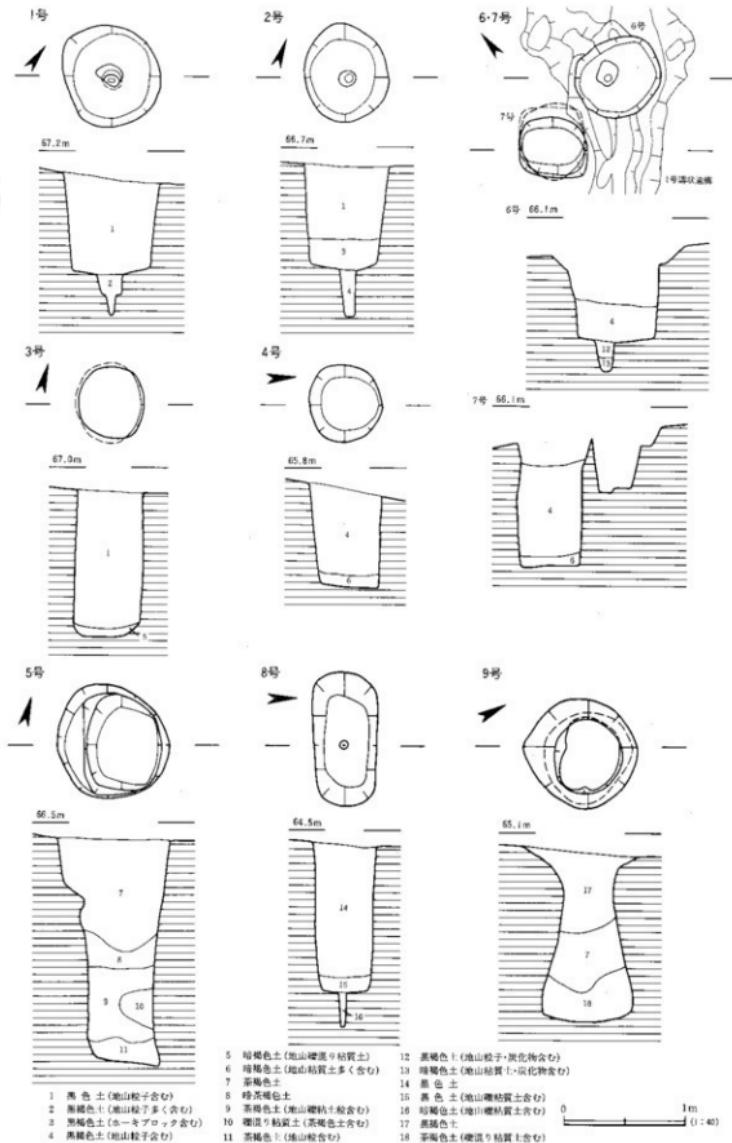
**23号落し穴** 調査区南東端に所在する。楕円形プランで杭穴を3か所確認した。

**24号落し穴** 調査区南東端に所在する。穴は、斜面の谷側に向かって掘り込まれている。

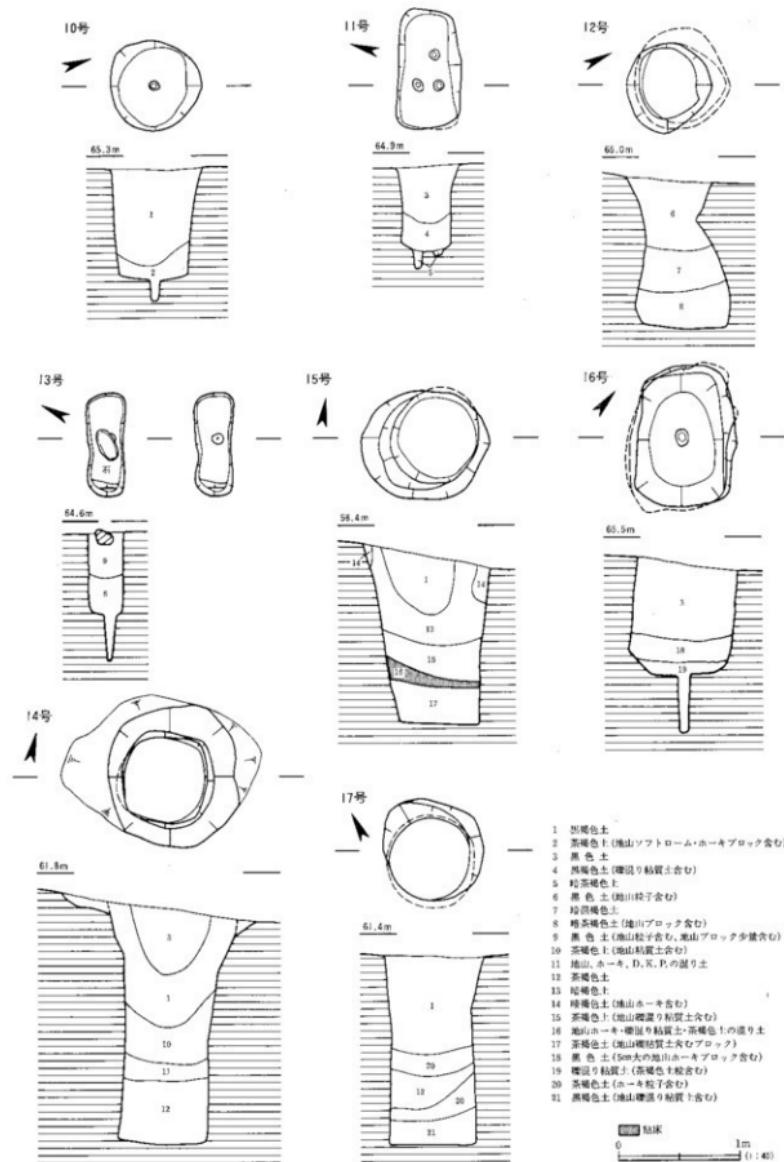
落し穴一覧表

(cm: ( )は推定値)

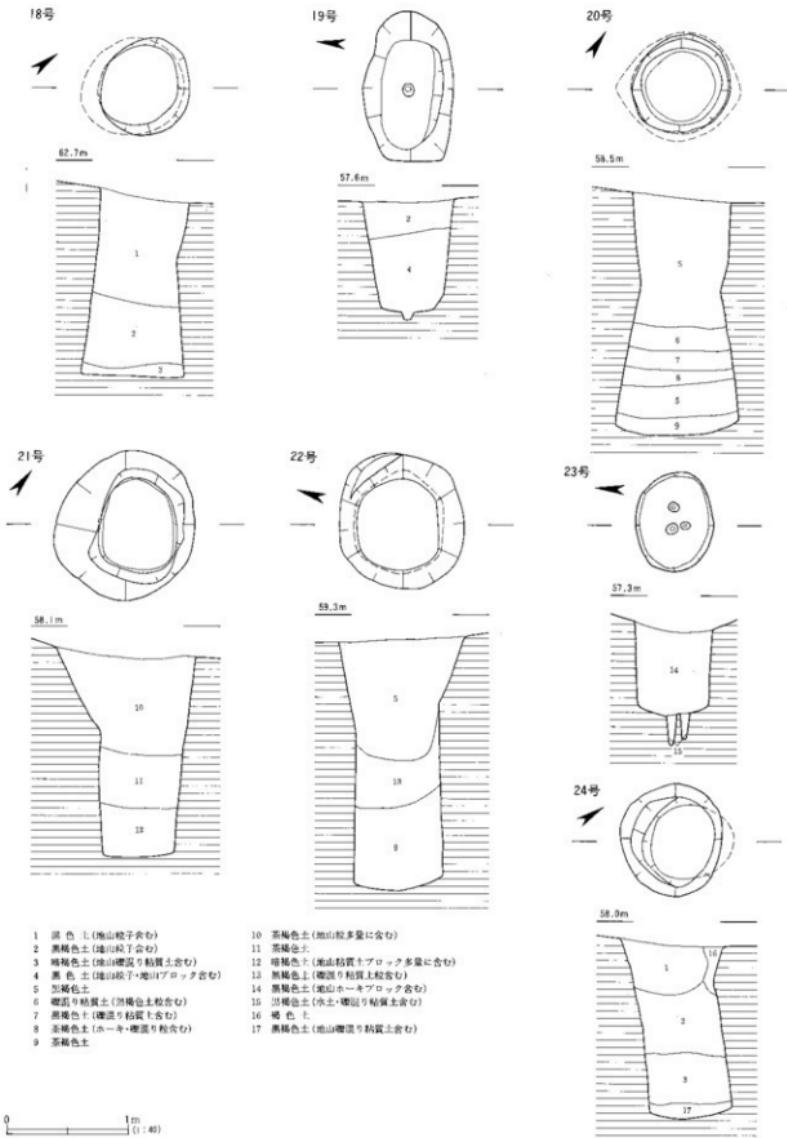
No.	平面形		断面形態	検出面規模 長軸×短軸-深さ	底面規模 長軸×短軸	底面杭痕跡		備考
	検出面	底面				数	短径-深さ	
1	円	円	垂 直	89×42-33	67×66	中央1	16-34	
2	円	円	垂 直	82×68-88	62×54	中央1	13-38	
3	円	円	垂 直	61×54-121	67×54	なし		
4	円	円	垂 直	65×60-87	48×46	なし		
5	円	楕 円	垂 直	95×90-190	30×26	なし		
6	楕 円	楕 円	垂 直	71×64-65	65×54	中央1	16-26	炭化物出土
7	楕 円	方	垂 直	57×50-111	53×52	なし		
8	長 方	長 方	垂 直	111×54-125	74×39	中央1	14-28	
9	円	円	フ拉斯コ	89×86-145	73×68	なし		
10	円	楕 円	垂 直	76×74-93	65×55	中央1	16-16	
11	長 方	長 方	垂 直	100×53-72	74×46	3	8-15+8-12+8-5	
12	楕 円	楕 円	フ拉斯コ	70×68-125	68×68	なし		
13	ま ゅ	ま ゅ	垂 直	85×31-66	72×28	中央1	9-38	炭化物出土
14	楕 円	円	垂 直	131×117-198	70×67	なし		
15	楕 円	円	すばまり	106×92-150	68×64	なし		
16	長 方	楕 円	垂 直	116×82-98	77×53	中央1	10-48	
17	楕 円	円	垂 直	91×71-156	68×67	なし		
18	楕 円	楕 円	垂 直	82×74-157	72×62	なし		
19	長 方	長 方	すばまり	124×75-94	93×43	中央1	9-6	
20	円	円	フ拉斯コ	85×78-201	57×54	なし		
21	楕 円	楕 円	すばまり	125×114-172	73×58	なし		
22	円	円	すばまり	111×103-210	76×67	なし		
23	楕 円	楕 円	垂 直	83×65-79	77×57	3	8-27+6-21+8-23	
24	円	楕 円	斜 め	93×84-128	67×61	なし		斜めに掘り込む
25	楕 円	円	垂 直	63×52-164	63×61	なし		
26	楕 円	楕 円	垂 直	72×66-142	49×44	なし		
27	楕 円	楕 円	垂 直	80×(70)-106	65×52	なし		



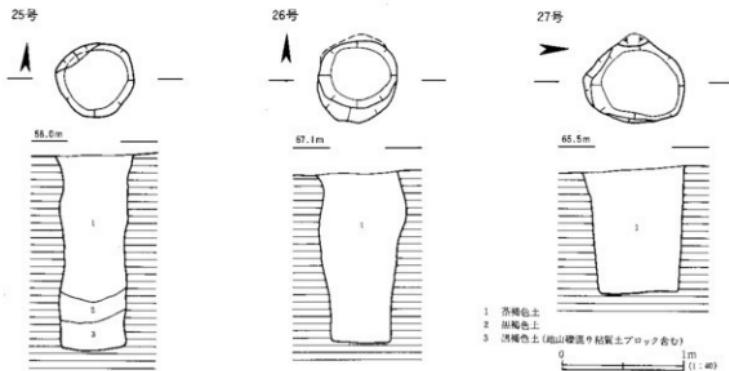
第4図 1号～9号落し穴構造図



第5図 10号～17号落し穴遺構図



第6図 18号～24号落し穴構造図



第7図 25号～27号落し穴遺構図

### 土壤

土壤は、合計16基確認した。各土壤の説明は落し穴と同様に表に一括し、特徴的な土壤のみ述べる。

**1号土壤** 調査区東寄りに所在する。土壤全体より10～40cm大の角張った礫が、底面から0.1m弱浮いた状態で出土した。土壤の南側は16号土壤と切り合い、完掘した底面の状況より、1号土壤の方が新しいと見られる。遺物は出土しなかった。

**5号・6号土壤** 調査区東寄りに所在する。長方形プランで、斜面に対し長軸が直交する。遺物は出土しなかった。

**9号土壤** 調査区東北に所在する。円形プランで、壁際を円形に約2cm掘り窪めている。土壤の底面形状は、弥生時代の貯蔵穴に似るが、土壤が浅く、遺物が全くないため断定できない。

### 古墓

古墓は調査区西端と、東端近くで1基ずつ合計2基確認した。

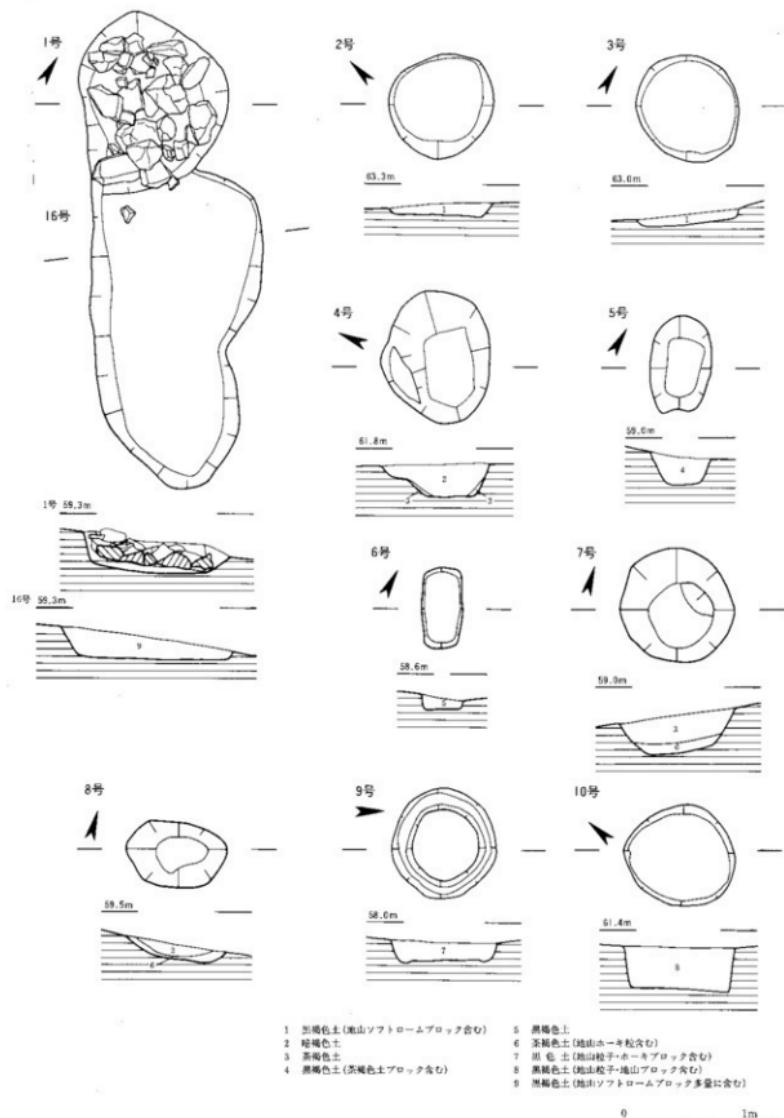
**1号古墓** 調査区の東端近くの斜面に所在する。平面形は長方形で検出面規模は長さ1.37m・幅0.72m、底面規模は長さ1.29m・幅0.57mである。埋土の断面分層より木棺痕跡は検出しなかった。土壤の底面東寄りで、約0.80×0.30mの範囲で焼土面が確認された。焼土面がある真上に、約50×30cm大の石が出土した。遺物は鉄刀(F1)が土壤の長軸に沿って、茎側を西にして出土した。

**鉄刀(F1)** 遺存長23.9cm、身元幅2.8cm・厚さ0.7cm、茎長さ12.5cm・幅1.9cm・厚さ0.6cm。両刃。刃先と茎尻を欠損。目釘穴を有する。全体的に木質が遺存する。

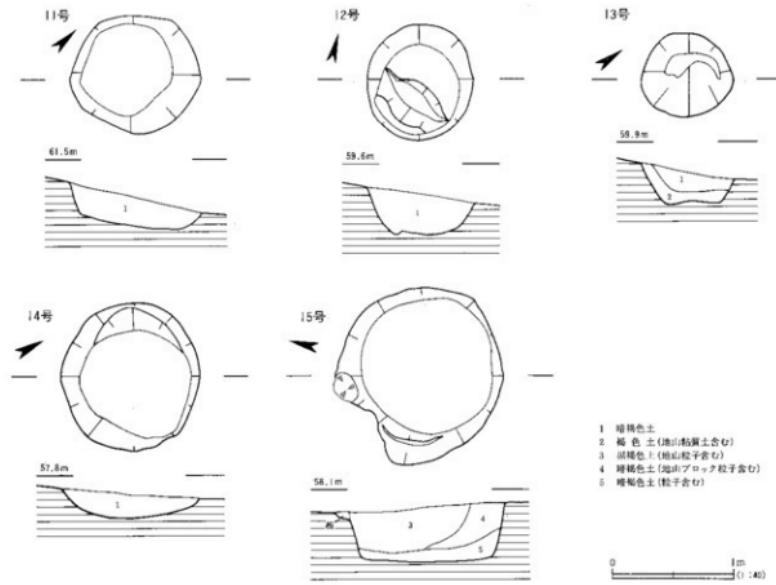
### 土壤一覧表

(cm: ( )は推定値)

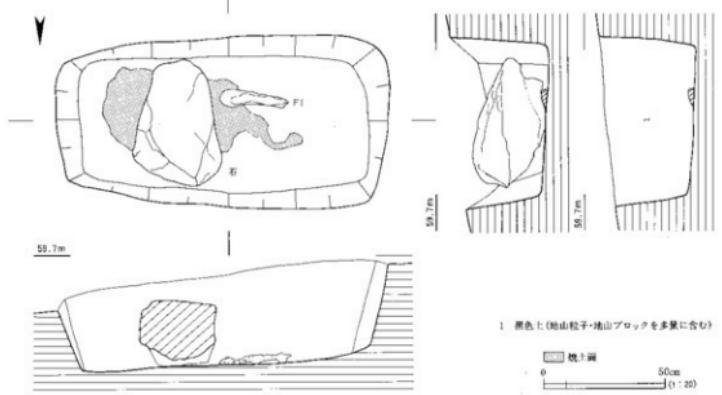
No.	平面形	検出面規模 長軸×短軸-深さ	備考	
			16号土壤と切り合う	
1	不整円	150×125-26		
2	円	88×81-11		
3	円	94×83-9		
4	楕円	111×93-27		
5	楕円	82×51-24		
6	長方	68×34-13		
7	円	97×90-32		
8	楕円	84×44-10		
9	円	91×81-97	壁際に深さ2cmの溝あり	
10	楕円	92×84-37		
11	円	103×101-25		
12	円	95×89-38		
13	円	72×70-30		
14	円	123×115-20		
15	円	140×130-98		
16	不整	(250)×142-23		



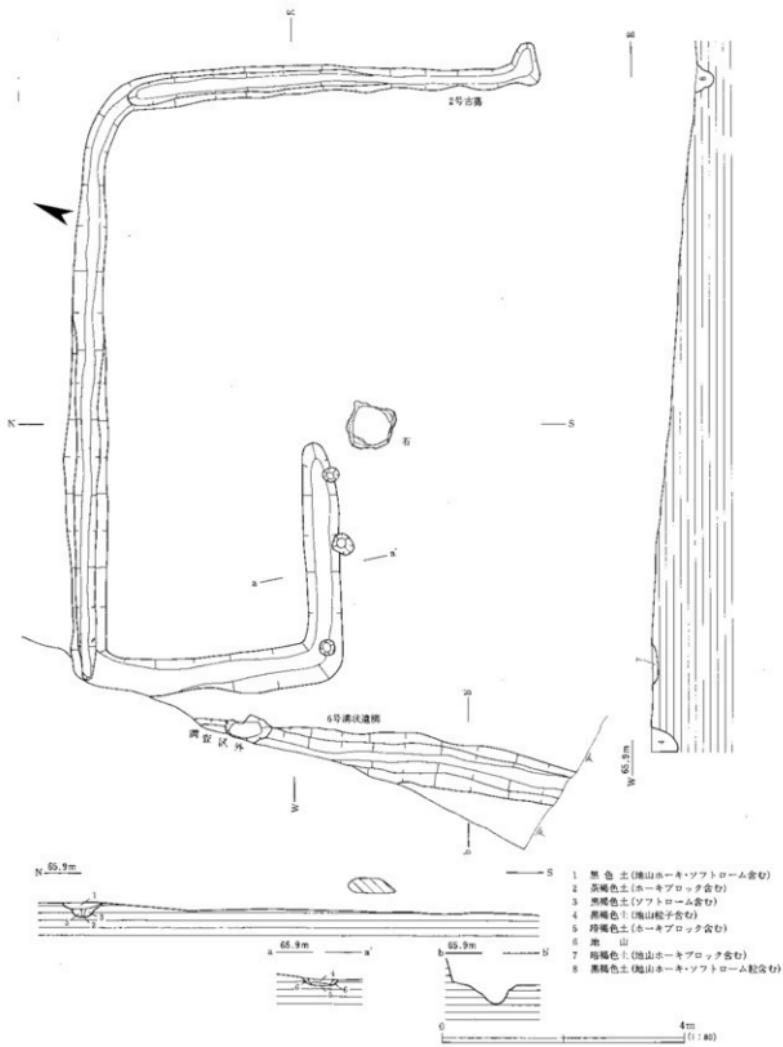
第8図 1号～10号・16号土壤造構図



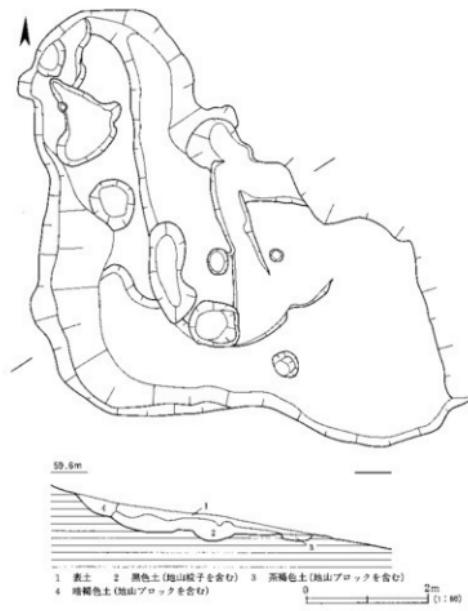
第9図 11号～15号土壤構造図



**2号古墓** 調査区西端の尾根近くに溝が存在する。溝は直線的に伸び、直角に折れ曲がり「」の形になっている。溝は北辺長さ約10m・幅約0.6m・深さ0.25m、東辺長さ約7m・幅約0.5m・深さ0.3m、西辺長さ約4m・幅約0.7m・深さ0.1m、南辺長さ約4m・幅約0.6m・深さ0.1mである。南辺東端の約1m南東より、直径約0.8mの石が出土した。遺物は溝の途中に張り付く状態で北西角より土師器鏡片が出土した。



第11図 2号古墓・6号清状遺構遺構図



第12図 1号段状遣構遺構図

方向である。

**1号溝状遣構** 調査区南東に所在し、6号落し穴を切って作られる。溝は長さ約4.3m・幅最大約1.2m・深さ最大0.6mで、北東側が深くなる。埋土のうち下半分は締まって固くなっている。底はピット状の窪みが溝に沿って続く。遺物は出土しなかった。

**2号・3号溝状遣構** 約2.8m離れて並行している。2号溝状遣構は長さ約4m・幅約0.2~0.6m・深さ最大約0.1m、3号溝状遣構は長さ約3.5m・幅約0.4m・深さ0.1mで、深さは斜面に沿ってほぼ一定である。どちらの溝も浅いピット状の窪みが連続する。遺物は出土しなかった。

**4号溝状遣構** 調査区の中央北端に所在する。溝の方向は尾根筋に平行し、長さ約7.7m・幅最大約0.84m・深さ最大約0.15mで、北西側が深い。溝の埋土中より上師質土器の壺(2)が出土した。

**壺(2)** 口縁部は内湾し内外面ヨコナデ、底部は高台気味に作り出し、回転糸切り。底部乾燥時の板目痕跡が遺存。外面の一部に赤色顔料が遺存。口径推定14.8cm、器高4.1cm、遺存度1/2。色調は外面黄褐色、内面は桃褐色。形態、手法より大日寺遺跡群・壺Ⅲに比定される。

**5号溝状遣構** 調査区の北東に所在する。溝の方向は尾根筋にほぼ平行し、長さ約6.2m・幅約0.3m・深さ約0.1m。約2mの等間隔に長軸0.6m・短軸0.4m・深さ0.2m程度のピットがある。遺物は出土しなかった。

**6号溝状遣構** 調査区西端の2号古墓西側に所在する。溝は、南側を水路により切られ、北側は調査区外へと延びる。長さ6.3m・幅0.8m・深さ0.4mではほぼ一定である。遺物は出土しなかった。

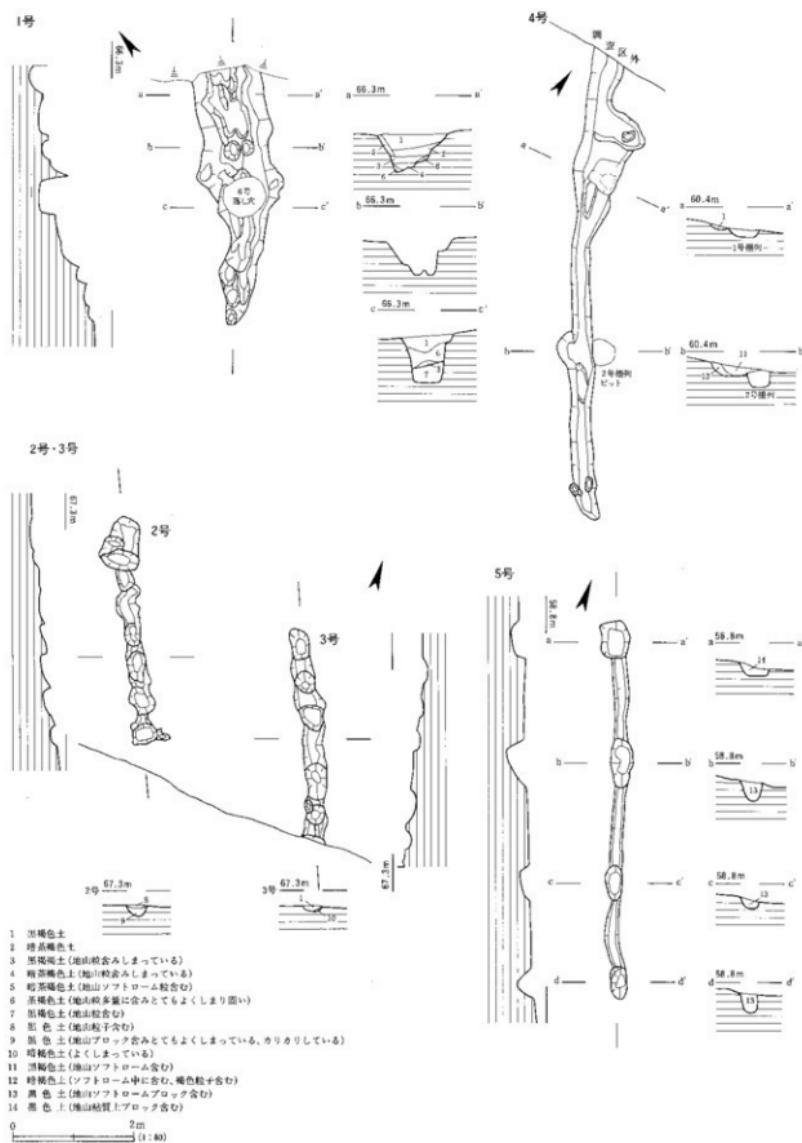
註) 森下哲哉『大日寺遺跡群発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1993年

**1号段状遣構** 調査区の東端近くに所在する。遺構は南北長さ約6.7m、東西長さ6.6mで、隅の丸い三角形で遺存するが本来は隅丸方形とみられる。底は凸凹するが、ほぼ水平である。遺物は埋土中より、擂鉢(唐津・1)、陶磁器片、石錘(S1)・砥石2(S2・3)・敲石(S4)・石臼(S5)が出土した。

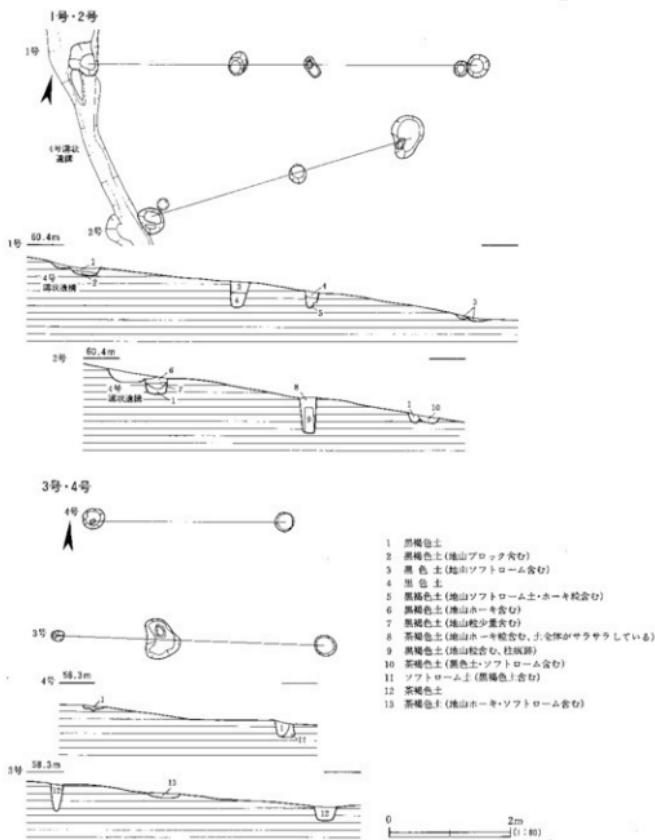
**擂鉢(1)** 体部下半が直線的、上半はやや内傾しながら外方にのびる。口縁部は外に開き、折り返して玉縁状になる。外面は上半がヨコナデ、下半は横方向のケズリ。内面の上1/3はヨコナデ、下2/3はほぼ15条を1単位、幅約4cmである幅目。底部は高台。口径推定29.6cm、器高推定7.7cm、遺存度1/10。色調は暗赤褐色。

#### 溝状遣構

溝状遣構は、調査区の南西と北東部分で合計6条確認した。1号溝状遣構は南西~北東方向に延びるが、それ以外は、いずれも南東~北西に延びており、尾根筋と同じ



第13図 1号～5号溝状遺構構造図



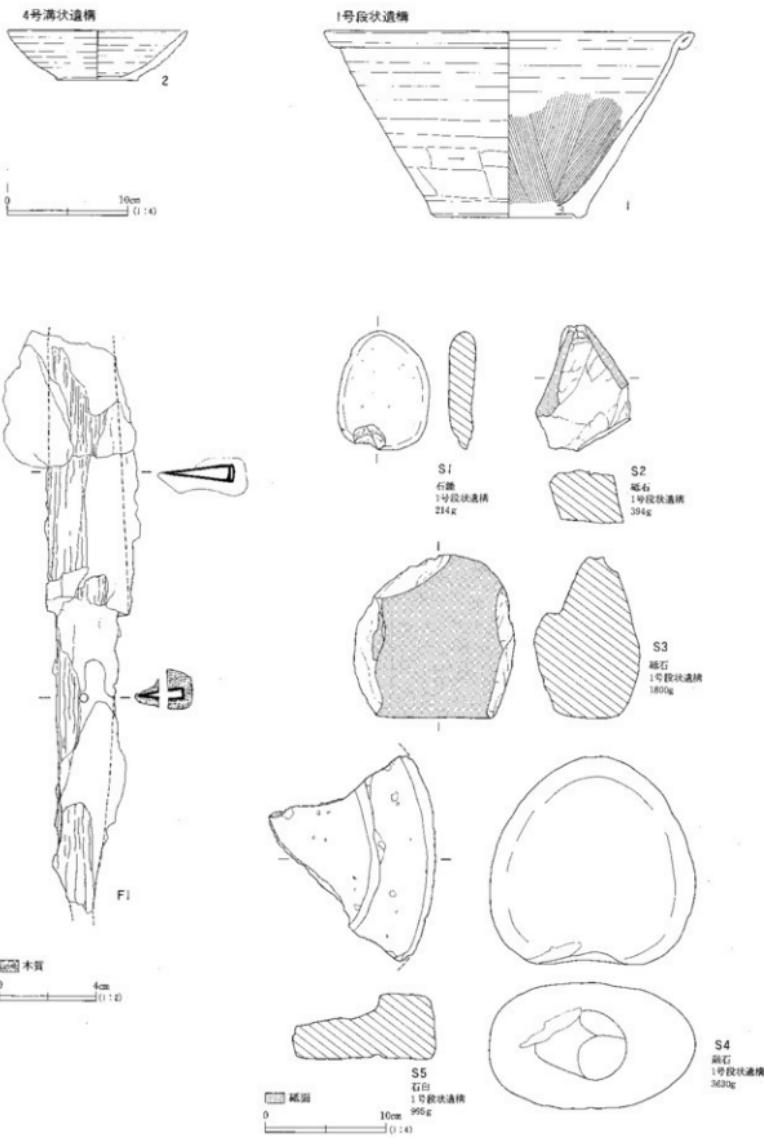
第14図 1号～4号柵列遺構図

#### 柵列

調査区の北端東寄りで4基の柵列を確認した。柵列はいずれもほぼ東西方向である。

**1号・2号柵列** 4号溝状遺構の東側に所在する。2号柵列の西端ピットは4号溝状遺構によって切られることが断面観察により認められた。また中央のピットは断面で幅8cmの木材とみられる痕跡が認められた。

**3号・4号柵列** 約2m離れて東西方向にはほぼ並行している。



第15図 下西野遺跡出土遺物図

## IV ま と め

調査の結果、落し穴27基、土壌16基、古墓2基、段状遺構1基、溝状遺構6条、柵列4基を検出した。

### 落し穴

**平面形** 落し穴底面の平面形は、円形11基(40.7%)、楕円形11基(40.7%)、長方形3基(11.2%)、方形1基(3.7%)、菱形1基(3.7%)であった。円形、楕円形の丸い落し穴が全体の81.4%と大多数を占める。

**断面形** 断面形は垂直型が19基(70.4%)、すぼまり型4基(14.8%)、フラスコ型3基(11.1%)、斜め型1基(3.7%)であった。

**深さ** 深さは浅いもので0.65m、深いもので2.10mであった。平均では約1.27mであるが大きさの分布はばらばらである。

**杭痕跡** 杭痕跡は10基(37.0%)で確認された。この内、杭穴を1個もつのは8基(29.6%)、杭穴を3個もつものが2基(7.4%)ある。1.40m以上 の深さを持つ穴には、杭痕跡が認められなかった。深い穴は陥れた動物がはい上がれないため、逃走防止用の動物に突き刺さる杭が必要ないのであろう。

**時期** 落し穴から土器ではなく、表土中にわずかに繩文土器片があるにすぎない。埋土中の炭化物は6・13号落し穴で見つかったが<sup>14</sup>C年代測定は未鑑定である。このため時期については不明である。なお、市内で行った落し穴の調査のうち<sup>14</sup>C年代測定と出土土器によって年代の判っているものは、早期3基、前期15基(うち土器によるもの3基)、中期16基(うち土器によるもの1基)、後期1基と幅広い。

**分布** 落し穴は丘陵の斜面部分と尾根筋の鞍部に分布している。<sup>註1)</sup>これは以前の中尾遺跡、長谷遺跡、横谷遺跡群の調査での分布状況と一致している。落し穴は、けもの道に作るものであろうから、動物が通る習性に起因して分布の状況が似るのであろう。

8・11・13号落し穴はいずれも杭痕跡のある長方形プランでほぼ同じ標高にある。9・12号落し穴は、断面フラスコ型でほぼ同じ標高にある。これらは、それぞれが同時に作られたとみられ、落し穴を結ぶ線上にけもの道の存在が推定される。8・11・13号落し穴は、けもの道に対して、落し穴の短軸が直交する。中尾遺跡でも、方向性を持つ落し穴は土壤短軸を結ぶ形で配置されていることが分かっている。

**古墓** 1号古墓は、焼土面の存在より火葬墓とみられ、焼土面の上に石を置いた状況より中世墓と推定する。

2号古墓は、溝より出土した土師器鍋片より中世墳墓と推定する。6号溝状遺構は、溝の形態と方向が2号古墓に類似しているため古墓の可能性がある。また、調査区外のすぐ南にマウンドがあり、数cm大の小石が散乱している。これも、おそらく中世墳墓と推定され、付近一帯には中世古墓群の存在が想定される。

**溝状遺構** 4号溝状遺構が中世と推定されるのみである。遺溝の性格は不明である。

**柵列** 2号柵列は切り合いにより、4号溝状遺構より古い。したがって、2号柵列は中世あるいはそれ以前の遺構と推定される。その他の柵列も、近い場所に同じ方向であることより同時期であると推定される。2号柵列のピットに木材とみられる痕跡があることより杭が立っていたことが想定できる。しかし、その性格は不明である。

**段状遺構** 段状遺構は出土遺物より近世と推定される。遺溝の性格は不明である。

### 註

1 横鈴智津子他『中尾遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1992年

2 竹中孝治『長谷遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1994年

3 横鈴智津子『横谷遺跡群発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1996年

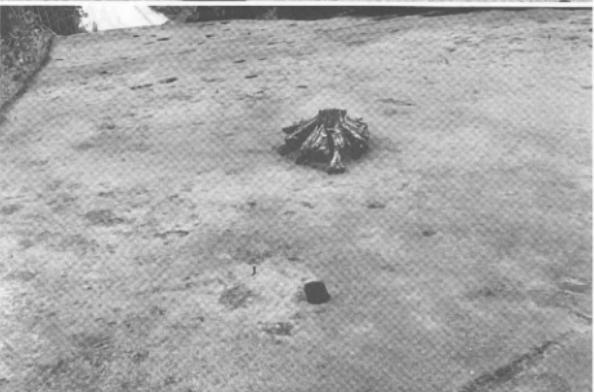
調査区全景

(東より)



調査区全景

(西より)

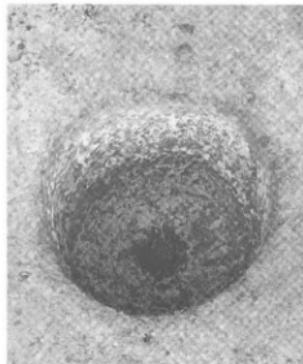


水路より南側全景

(北より)



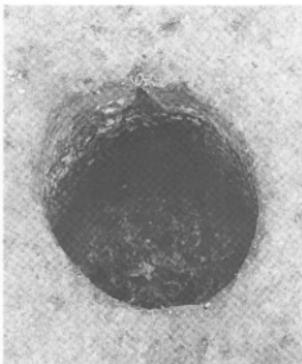
図版 2



1号落し穴（北より）



2号落し穴（北より）



3号落し穴（北より）



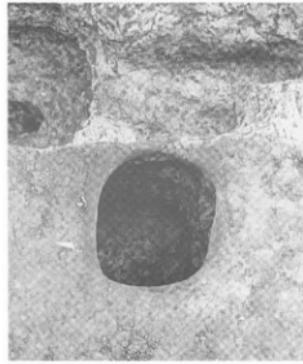
4号落し穴（東より）



5号落し穴（北より）



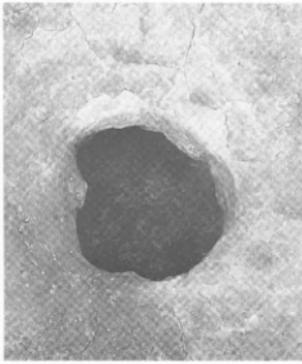
6号落し穴（北より）



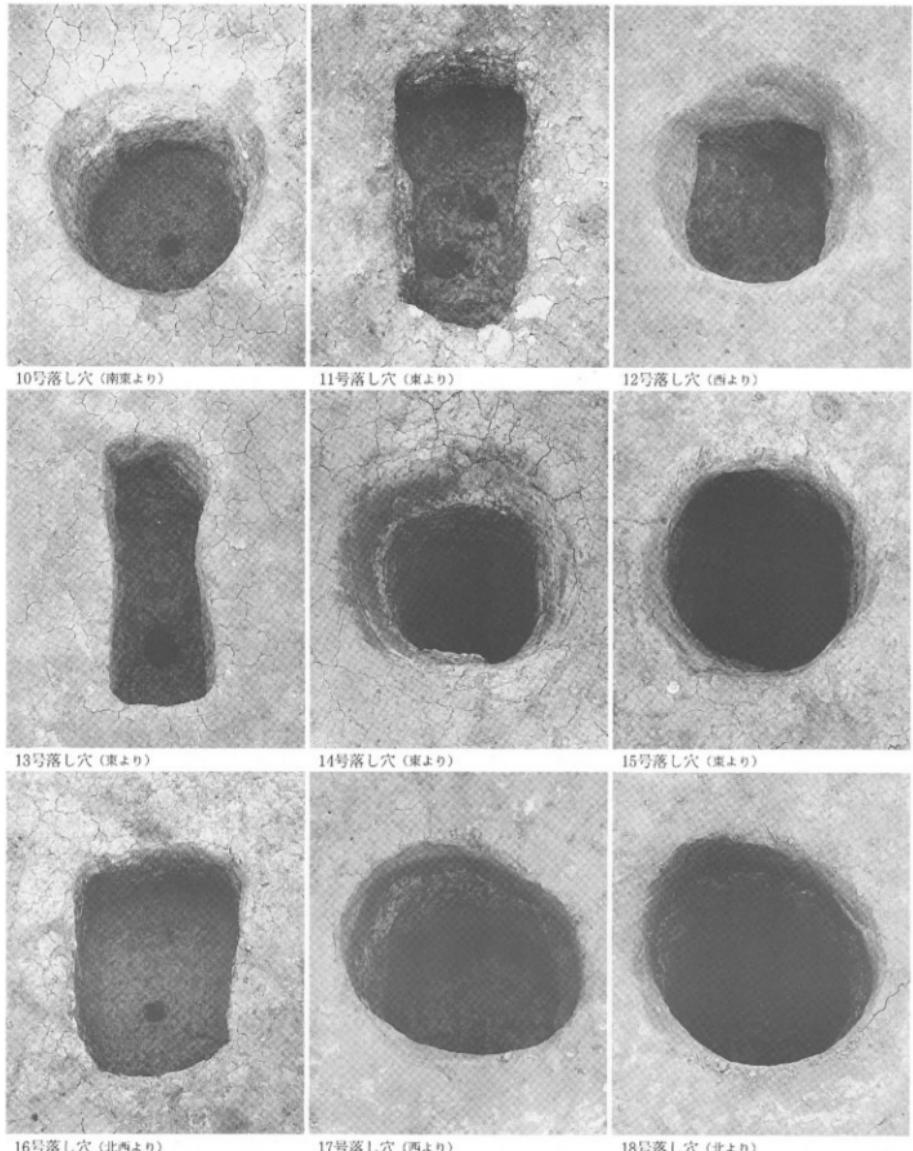
7号落し穴（西より）



8号落し穴（西より）



9号落し穴（東より）



図版 4



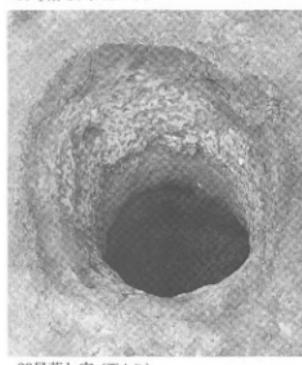
19号落し穴 (東より)



20号落し穴 (東より)



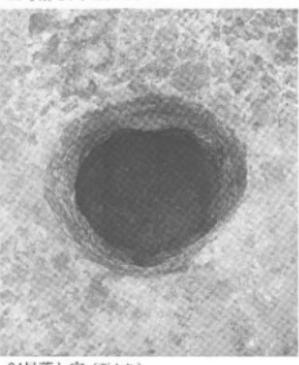
21号落し穴 (南より)



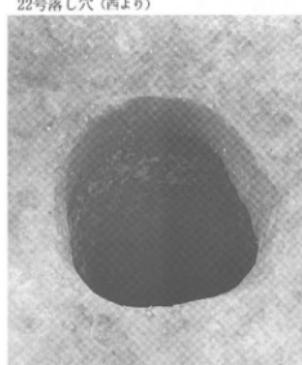
22号落し穴 (西より)



23号落し穴 (東より)



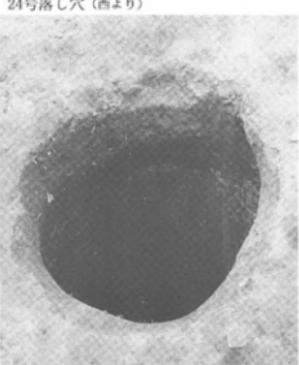
24号落し穴 (西より)



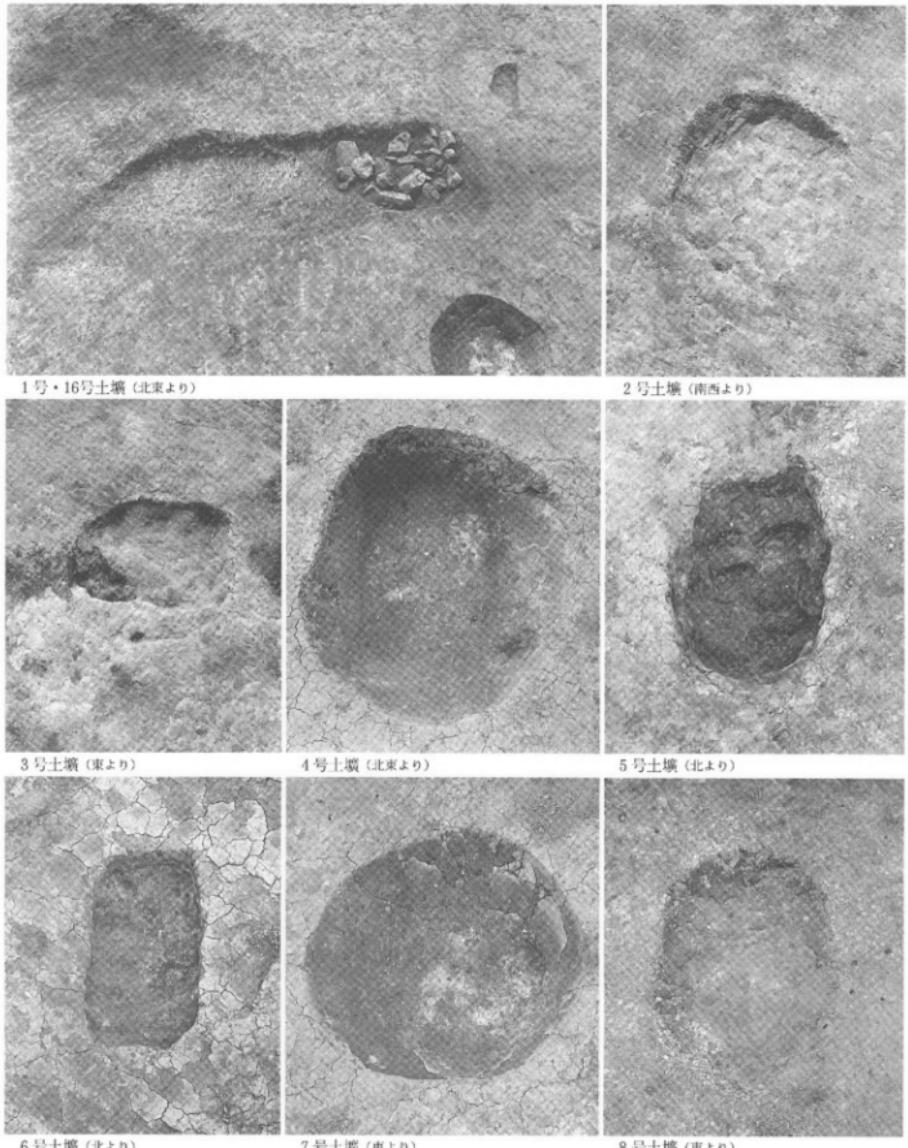
25号落し穴 (東より)



26号落し穴 (北より)



27号落し穴 (北東より)



図版 6



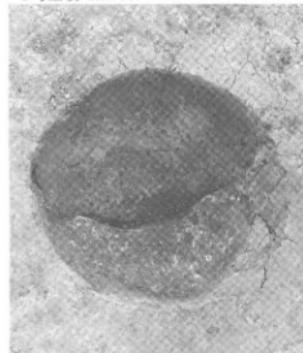
9号土壤（東より）



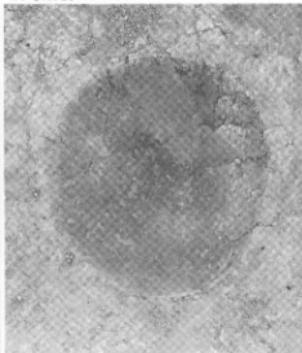
10号土壤（東より）



11号土壤（東より）



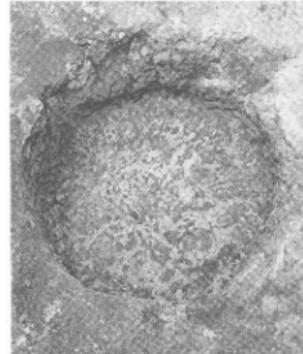
12号土壤（南より）



13号土壤（北より）



14号土壤（南より）



15号土壤（東より）



1号古墓鉄刀・石出土状況（東より）



1号古墓完掘（東より）



2号古墓内石出土状況（南東より）



2号古墓（西より）



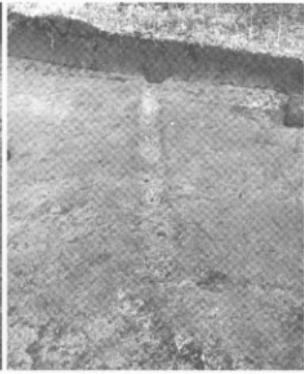
1号段状造構（東より）



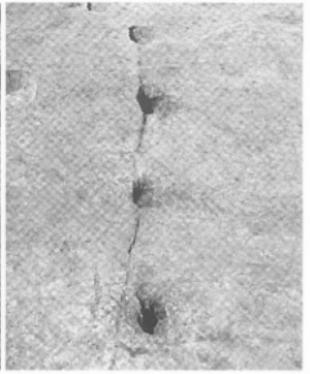
1号溝状造構（北より）



2号溝状造構（北より）



3号溝状造構（北より）

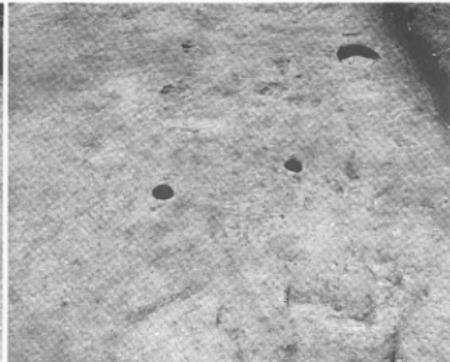


5号溝状造構（南より）

図版 8

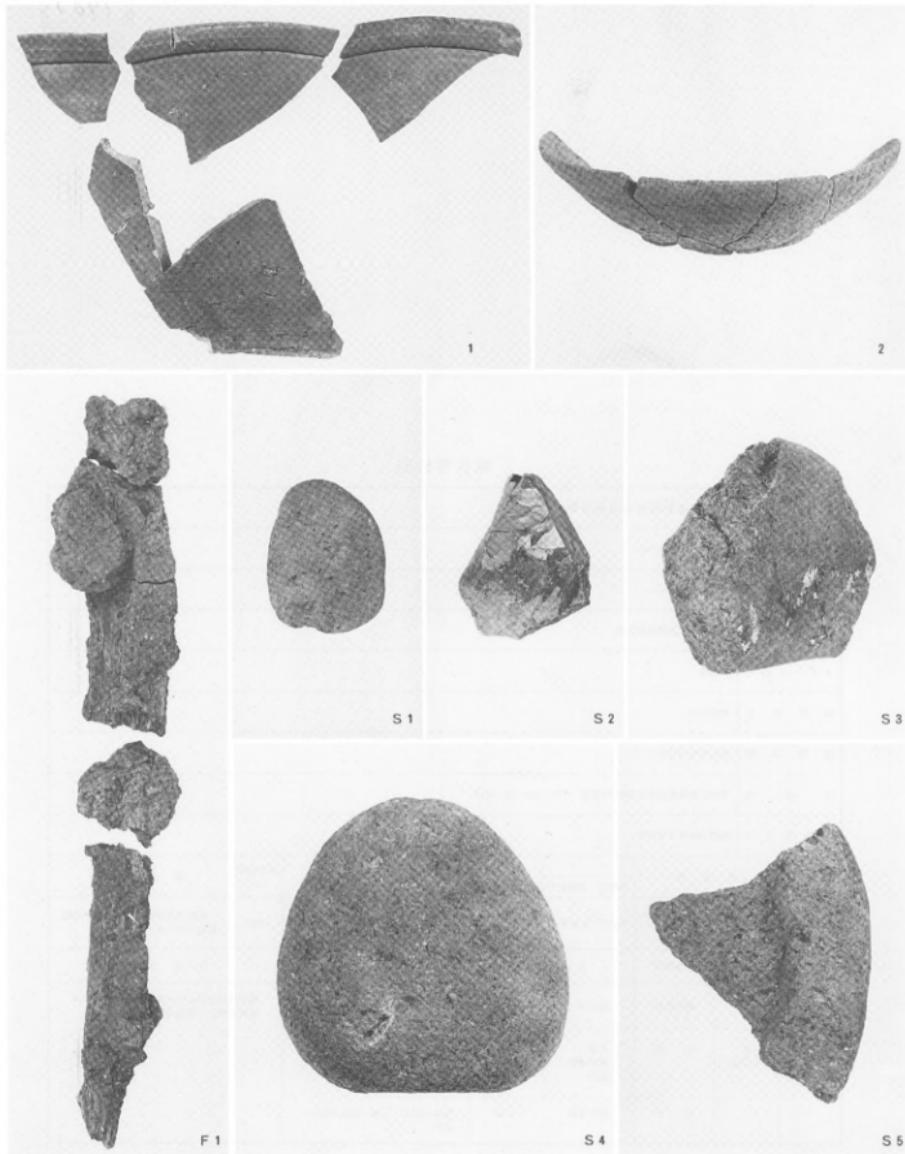


4号溝状造構 1号・2号柵列(南より)



3号・4号柵列(東より)

出土遺物



1 : 2 (F1), 1 : 3 (1, S1~S5)

210.2  
Kur  
(90)

図書館

報告書抄録

書名	下西野遺跡発掘調査報告書						
調書名	――						
卷次	――						
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第96集						
編著者名	加藤誠司						
編集機関	倉吉市教育委員会						
所在地	〒682 島根県倉吉市茨町722番地 TEL.0856-22-4419						
発行年月日	西暦1997年3月19日						
所収道跡名	所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
下西野遺跡	島根県倉吉市茨町字下西野・ 下長尾	31203 : 2 M T S	35° 24' 44"	133° 48' 56"	1996年6月27日～1996年8月30日	3800	一般県道倉吉環状線整備工事に伴う事前調査
所収道跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
下西野遺跡	土塁	縄文時代	溝窓穴	27基	縄文時代の探し穴と中世の古墓、近世の段状遺構との複合遺跡。		
	墓	生活跡	古墓 溝状遺構 網列	2基 6条 4基			
		近世	段状遺構	1基			
					土師器・鐵刀 土師質土器		
					鐵體・鐵器・石磚・瓦石・散石・ 石臼		

---

下西野遺跡発掘調査報告書

平成9年3月19日 印刷

平成9年3月19日 発行

編集 発行 倉吉市教育委員会

印刷 (有) 池田印刷

---